地方史研究Ⅱ

科目ナンバリング　JPH-240
選択　　2単位

深谷　幸治

1. 授業の概要（ねらい）

前期の地方史研究とⅠ同様に、この後期の地方史研究Ⅱでもさまざまな地方・地域の歴史・地理・文化などについての講義をしていくものである。

地方・地域とはいろいろな定義が考えられるが、この授業では担当教員が自らその地に足を運び、たとえ一部であってもその地方・地域の風土・生活・文化などを実見してきた場所を素材として取り上げ、講義時間毎に一つの地方・地域に関する説明を行っていく方式で進める。前期に続き、後期も都道府県別に「地方」を分けてその地理と歴史について講義する。

2. 授業の到達目標

地方・地域の歴史・地理・文化等の諸相につき、担当教員が分析し説明していくという方式の授業を通じて、受講学生諸君にはそれらで取り上げられた、あるいは自らが居住する地方・地域の特質を認識し、それを知識・知見として取り入れていくことを目標とする。またそれらを基礎として、学生諸君が専門的分野の演習への対応や卒業論文の構想などに際し、この授業で説明するような手法・視点・内容を手がかりとして生かしていくことができるようになることをも目指す。

3. 成績評価の方法および基準

出席は成績評価の前提となる必要条件である。それを満たした上で、後期授業の最後の時間に実施する試験の解答内容を勘案して、成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは使用しない。授業に必要な各地方・地域の情報を掲載したプリントを担当教員が作成し、毎時間それを学生に配布する。
参考文献
『都道府県史シリーズ』47巻　山川出版社

5. 準備学修の内容

受講を希望する各学生は、自らの興味がある地方・地域に関する関係書を多読しておくことが望ましい。またこの授業では、内容理解の都合上、地理的な知識を持っていることが不可欠となるので、普段から地図を見る、旅行をして実地にその場所を知る、などといった形でそれを深めていくことが適切である。

6. その他履修上の注意事項

地方史・地域史に興味を持つ学生諸君にとっては有意義な授業と考えるので、そうした学生の積極的な参加を期待する。

なお以下の授業内容はあくまで予定であり、状況によっては変更されることがあるので、承知しておいてもらいたい。

7. 授業内容

【第1回】　後期も初回から講義に入っていく。1回目は島根県の地理と歴史。
【第2回】　千葉県、房総半島とその根元。
【第3回】　東京都、首都圏とその原型である江戸の街、そして都下地域。
【第4回】　栃木県、関東と東北の間。
【第5回】　長野県、山岳とその間にある「平」。十州に境連ぬる国。
【第6回】　奈良県、京都より古き歴史あり。
【第7回】　新潟県、越後の気候・風土。
【第8回】　広島県、近畿と九州の中間。
【第9回】　福井県、北陸と畿内をつなぐ。
【第10回】　福岡県、古来より大陸交流の玄関口。
【第11回】　福島県、東北南部の「優等生」。
【第12回】　北海道、なぜここだけ「道」なのか。
【第13回】　宮城県、伊達氏が作った東北の中心。
【第14回】　山口県、中国地方の西端、九州との接点。
【第15回】　後期のまとめと試験。